

## 渡邊 実 教授

研 究 業 績

2024 年 4 月 1 日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著 書 (共)	「訪問教育の子どもたち」『新児童心理学講座』第 15 巻 子どもの発達障害と教育 (野村庄吾編)、第 5 章第 3 節、金子書房、175~195 頁	1991. 5
著 書 (共)	「実践を批判する—愛育養護学校の一日」(座談会)『シリーズ授業第 10 巻、障害児教育』(稲垣忠彦、谷川俊太郎、河合隼雄、竹内敏晴、佐伯胖、野村庄吾、佐藤学、前島正俊、牛山栄世、石井順治編集)、1~106 頁	1991. 6
著 書 (共)	「訪問教育の子どもたちからのメッセージ」『岩波講座「現代の教育」』第 0 巻「教育への告発」、第 II 章「学びと教えの現場から」(佐伯胖、黒崎勲、佐藤学、田中孝彦、浜田寿美男、藤田英典編)、岩波書店、96~108 頁	1998. 1
著 書 (共)	「学童期の意味化課程—障害児教育の実践から」『意味の形成と発達：生涯発達心理学序説』第 5 章 (岡本夏木、山上雅子編)、ミネルヴァ書房、90~124 頁	1998. 10
著 書 (共)	『主な指導技法と教育課程 1. 国語』菅野敦他編著、ナカニシヤ出版、83~102 頁	2006. 8
著 書 (共)	「特別支援学校と地域性—総合化とセンター的機能の充実」『特別支援教育の基礎と動向—新しい障害児教育のかたち』菅野敦他編著、培風館、165~174 頁	2007. 10
著 書 (共)	「特別支援教育とインクルーシブ教育の展望」『ソーシャル・インクルージョンへの挑戦』二文字理明他編著、明石書店、233~248 頁	2007. 11
著 書 (共)	「臨床発達心理学・理論と実践⑥学童期の支援—特別支援教育をふまえて—」長崎勤・藤野博編著、ミネルヴァ書房 149~160 頁	2011. 2
著 書 (共)	「支援を必要とする子どもと特別支援教育」『臨床心理学ことはじめ』花園大学社会福祉学部臨床心理学科編、ナカニシヤ出版、119~131 頁	2012. 3
著 書 (共)	よくわかる臨床発達心理学(第 4 版)、麻生武・浜田寿美男編著、IV 発達臨床の現場 10「特別支援学級」190~191 頁、IV 発達臨床の現場、コラム 21「障害児教育の歴史と特別支援教育」	2012. 9

	ミネルヴァ書房、192～193 頁、	
著 書(共)	特別支援教育の基礎と動向—新しい障害児教育のかたち(改訂版) 第 19 章「特別支援学校と地域性—総合化とセンター的機能の充実」、培風館、177～186 頁	2013. 9
著 書(共)	「新しい特別支援教育のかたち—インクルーシブ教育の実現に向けて」吉利宗久・是永かな子・大沼直樹・共編著、第 17 章「特別支援教育のセンター的機能の活用と課題」培風館、174～183 頁	2016. 9
著 書(共)	「特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち」吉利宗久・千賀愛共編著、第 18 章「共生社会を旨としたインクルーシブ教育のための交流及び共同学習」培風館、173～181 頁	2023. 3
著 書(共)	花園大学人権論集 30、「人間社会の再生可能性」花園大学人権教育研究センター編、「訪問教育の子どもたちと共に」批評社、15～39 頁	2023. 3
論 文(単)	「訪問教育における感覚指導の事例」『脳性マヒ児の教育』No. 36、日本アビリティーズ協会、23～26 頁	1980. 3
論 文(単)	「訪問教育における事例から」『モンテッソーリ治療教育研究』第 4 巻第 1 号、モンテッソーリ治療教育研究、14～19 頁	1981. 6
論 文(単)	「学校がやってくる—訪問教育 6 年間の中から—」『発達』No. 20、ミネルヴァ書房、57～65 頁	1984. 10
論 文(単)	「子どもの事実から共に創る」授業の展開『発達の遅れと教育』No. 426、日本文化科学社、10～13 頁	1993. 7
論 文(単)	「障害児学級に通う、ある子どもの文字・書きことばの習得から考える」『発達』No. 69 (人との関係に問題を持つ子どもたち連載 12)、ミネルヴァ書房、94～102 頁	1997. 1
論 文(単)	「在宅重症児の発達と教育 —訪問教育 12 年間の実践から—」修士論文、大阪教育大学大学院教育学研究科、137 頁	1998. 3
論 文(単)	「訪問教育の子どもたちから教えられたこと—M ちゃんにおける自我の形成—」『形政 11 月号』第 109 巻通巻 1275 号、(財)矯正協会、30～38 頁	1998. 11
論 文(単)	「在宅重症児 M 子の発達と教育 —訪問教育の実践から—」『発達人間学叢書』第 2 号 1998 年度、大阪教育大学発達人間学講座、37～48 頁	1999. 2
論 文(単)	「障害児学級に通う子どもの文字・書きことばの習得について—障害児学級 8 年間の実践から—」修士論文、大阪教育大学大学院教育学研究科、184 頁	2000. 3

論文(単)	「ひとり遊びが好きなS君」『発達』No. 84 (人との関係に問題を持つ子どもたち連載 26)、ミネルヴァ書房、95～102 頁	2000. 10
論文(単)	「障害児学級から見た「特別支援教育」」『発達』97号、ミネルヴァ書房、64～72 頁	2004. 1
論文(単)	「障害を持つ子と絵本」『発達』99号、ミネルヴァ書房、31～34 頁	2004. 7
論文(単)	「発達の視点にもとづく特別支援教育 コーディネーターの役割—発達心理学の知見を教育実践にいかにかに生かしていくのか—」『日本臨床発達心理士会実践研究誌』第2号、日本臨床発達心理士会、32～42 頁	2007. 7
論文(単)	「知的障害児における文字・書きことばの習得状況と精神年齢との関連」『発達心理学研究』第21巻第2号、日本発達心理学会、169～181 頁	2009. 6
論文(単)	「スリランカのインクルーシブ教育の実践—特別支援学級の実践事例から考える—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』、81～89 頁	2010. 3
論文(単)	「教育実践で大切にしたいことと学習指導要領の改訂」『発達』119号、ミネルヴァ書房、65～72 頁	2009. 7
論文(単)	「知的障害児における文字・書きことばのまなびを支える」『発達』125号、ミネルヴァ書房、72～80 頁	2011. 1
論文(単)	「知的障害児の文字・書き言葉の指導における担当教員の意識と指導方法」『花園大学社会福祉学部研究紀要』、49～62 頁	2012. 3
論文(単)	「巡回相談による子どものアセスメントと支援のあり方」『発達』131号、ミネルヴァ書房、46～53 頁	2012. 7
論文(単)	「領域・教科を合わせた指導から考える重度・重複障害児の授業作り—領域・教科と関連したコアカリキュラムによる指導」、『花園大学社会福祉学部研究紀要』第24号、1-18 頁	2016. 3
論文(単)	「学習定着や宿題への取り組み及び集中力など学習にむかうことに課題が見られる児童のアセスメントと支援」、『K-ABC アセスメント研究』第18号、49-60 頁	2016. 8
論文(単)	「病弱教育の課題と展望—院内学級における高等学校段階での教育保障—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第25号、85～101頁	2017. 3
論文(単)	「「遊び」の発達の視点から作る領域・教科を合わせた「遊びの指導」」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第25号、67～84頁	2017. 3
論文(単)	「発達の支援を必要とする子どもにおける発達心理学の知見からの支援のあり方—知的障害児と定型発達児への発達の支	2018. 3

	援—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第26号、13～25頁	
論文(単)	「特別支援学校の教育課程における自立活動の意義と指導法—病弱教育における自立活動の指導内容と方法に着目して—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第26号、27～43頁	2018. 3
論文(単)	「通常学級における支援を必要とする子への具体的支援方法の考察—小学校段階における支援の必要な子への関わりの理念と手順—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第27号、63-75頁、花園大学社会福祉学部	2019. 3
論文(単)	「ある知的障害児における文字・書きことばの習得過程の発達的研究—知的障害S児の小学校6年間の縦断的研究から—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第27号、39-62頁、花園大学社会福祉学部	2019. 3
論文(単)	「発達の視点から見た系統的・組織的支援」K-ABCアセスメント研究、第21巻、1-6頁、日本K-ABCアセスメント学会	2019. 8
論文(単)	「特別支援教育における『幸福』を考えるキャリア教育—特別支援教育における人生の在り方生き方考える授業—」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第32号、5-14頁、花園大学社会福祉学部	2024. 3
論文(単)	「インクルーシブ教育をみざす日本の特別支援教育の現状と課題」『人権教育研究』第32号、53-79頁、花園大学人権教育研究センター	2024. 3
論文(単)	「通常学級における気になる子のアセスメントと支援のありかた—通常学級における特別支援学校支援教育を進めるために—」『花園大学文学部研究紀要』第56号、69-85頁、花園大学文学部	2024. 3
翻訳(共)	『賢い赤ちゃん』T. G. R. Bower著「THE RATIONAL INFANT Learning in infancy」の全訳、ミネルヴァ書房、215頁	1995. 6
翻訳(共)	『インクルージョンの時代-北欧発「包括」教育理論の展望』Peder Hang and Jan Tossebro著「Theoretical Perspectives on Special Education」の全訳、明石書房(二文字理明: 監訳、尾崎輝子、尾崎ムゲン、尾崎百合子、浅野俊道、石橋正浩、山根祥雄、吉田弘子)、223～232頁	2004. 7
その他(共)	「「いわゆる在宅で寝たきり」といわれる子どもの知覚活動について」第27回全国肢体不自由児教育研究協議会奈良大会発表論文	1981. 11
その他(単)	「「在宅で寝たきり」と言われる子どもの知覚活動について」『昭和57年度文部省科学研究費補助金における研究報告』、2頁	1983. 3

その他（単）	「訪問教育が指し示すもの—現実と事実からの出発」『岩波講座「教育の方法」』第10巻付録、岩波書店、6～8頁	1987. 5
その他（単）	「カオルちゃんの1年—教育と医療をつなぐ、ある訪問教育の実践から—」『そよ風のように街に出よう』No. 45、リボン社、66～71頁	1991. 5
口頭発表（単）	「「在宅で寝たきり」と言われる子どもの知覚活動について」『日本教育心理学会第24回大会発表論文集』、858～859頁	1982. 11
口頭発表（単）	「「在宅で寝たきり」の子どもの関わりから見た発達の様相」『日本教育心理学会第26回大会発表論文集』、998～999頁	1984. 9
口頭発表（単）	「訪問教育を考える—12年間の歴史を振り返りながら」『日本特殊教育学会第23回大会発表論文集』、668～669頁	1985. 10
口頭発表（単）	「「在宅で寝たきり」の子どもの関わりから見た発達の様相（Ⅱ）」『日本教育心理学会第28回大会発表論文集』、1010～1011頁	1986. 10
口頭発表（単）	「「抱く—抱かれる」に見られる共同性の育ちについて」『日本教育心理学会第31回大会発表論文集』、432頁	1989. 7
口頭発表（単）	「ある「自閉」児の文字・書きことばの習得から」『日本教育心理学会第39回大会発表論文集』、572頁	1997. 9
口頭発表（単）	「ある情緒障害児におけるひとり遊びの意味」『日本発達心理学会第11回大会発表論文集』、400頁	2000. 3
口頭発表（単）	「ある障害児の「文字・書きことば」の習得過程と意味」『日本教育心理学会第24回大会発表論文集』、525頁	2000. 9
口頭発表（単）	「障害児学級と普通学級で学習するM子への関わりから—あるスペシャル・ニーズ・エデュケーションの試み—」『日本特殊教育学会第38回大会発表論文集』、518頁	2000. 9
口頭発表（単）	「ある知的障害児の仮名文字読字を眼球運動から考える」『日本心理学会第64回大会発表論文集』、1004頁	2000. 11
口頭発表（単）	「知的障害児における「文字・書きことば」学習の事例—質的転換を見据えた障害児学級での書字指導から—」『日本特殊教育学会第40回大会発表論文集』、524頁	2002. 9
口頭発表（単）	「ある自閉症児における意味化過程の事例」『日本教育心理学会第44回総会発表論文集』、487頁	2002. 10
口頭発表（単）	「知的障害における『文字・書きことば』学習の事例Ⅱ—小学校5・6年生における手紙活動と本読みに注目して」『日本教育心理学会第46回総会発表論文集』、232頁	2004. 9
口頭発表	「発達の観点をもった特別支援教育コーディネーターはこう働く」指定討論実践研究プロジェクト企画シンポジウム、日	2007. 7

	本臨床発達心理士会全国大会	
口頭発表	“Lesson for children with special needs in Japan” 2nd SRI LANKA-JAPAN RESERCH CONFERENCE ON TEACHER TRAINING TOWARDS INCLUSIVE EDCATION August 2007 Department of Education faculty of Arts University of Peradeniya SriLanka	2007. 8
口頭発表	「スリランカの障害児教育－途上国の地域教育から学ぶ－」自主シンポジウム企画及び司会、日本特殊教育学会	2007. 9
口頭発表	「発達の視点から発達に遅れのある子どもの育ちを支える」第46回日本特殊教育学会自主シンポジウム企画・司会者、島根大学	2008. 9
口頭発表	「障害児の学校・学級のこれから一個と集団の意味を問い直す」、第14回日本特別ニーズ教育学会自主シンポジウム企画・司会者、大阪市立大学	2008. 10
口頭発表	「知的障害児における文字・書きことばの習得状況と精神年齢との関連」第20回日本発達心理学会、日本女子大学	2009. 3
報告書（共）	『京都市教育委員会特殊教育研究指定校 研究報告』京都市 呉竹養護学校、105～113頁	1989. 3
報告書（共）	『教育課程改訂検討委員会報告』京都市 呉竹養護学校、30頁	1990. 3
報告書（共）	「ある知的障害児における文字・書きことばの習得と意味について－S児における障害児学級4年間の実践から－」平成15年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B）研究報告書（研究代表：秋田喜代美）、27頁	2004. 3
書評（単）	「浜田寿美男著「「ありのままを生きる」障害と子どもの世界」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 6
書評（単）	「山上雅子著「「物語を生きる子どもたち」自閉症児の心理療法」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 7
書評（単）	「津守真著「保育者の地平」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 8
書評（単）	「箕浦康子著「地球市民を育てる教育」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 10
書評（単）	「林宥子著「理想の児童図書館を求めて」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 11
書評（単）	「阿南慈子著「「神様への手紙」命にそっと両手につんで」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1997. 12
書評（単）	「村本邦子著「『しあわせ家族』という嘘」京都新聞書評欄、1頁（750字）」	1998. 2

書 評 (単)	「岩本甦子、昭雄著「走り来たれよ吾娘よ」夢紡ぐダウン症児は女子大生」京都新聞書評欄、1 頁 (750 字)	1998. 3
書 評 (単)	「田中千穂子著「子育て不安の相談」京都新聞書評欄、1 頁(750 字)	1998. 4
書 評 (単)	「教育実践で大切にしたいことと学習指導要領の改訂」『発達』119 号、ミネルヴァ書房、65～72 頁	2009.
社会的活動	日本臨床発達心理士認定運営機構監事	
社会的活動	日本臨床発達心理士実践研究誌編集委員	
社会的活動	日本 KABC アセスメント学会理事	
社会的活動	日本学校ソーシャルワーク学会誌「学校ソーシャルワーク研究」編集委員	
社会的活動	京都 KABC アセスメント研究会代表	
社会的活動	宇治市教育委員会地域巡回相談員	
社会的活動	京都市立松陽小学校学校評議員	
社会的活動	京都市立洛風中学校学校評議員	